市民フォーラム

「東広島の近未来を語ろう」

― 国際化する東広島:市民と留学生・外国人市民との交流 ―

渡部和彦

下記の要領で市民フォーラム「東広島の近未来を語ろう」が開催されました。

テーマ：「国際化する東広島：市民と留学生・外国人市民との交流」
日 時：令和 2 年 2 月 8 日 (土) 午後 2 時～5 時
場 所：東広島市民文化センター・アザレアホール (サンスクエア・3階 西条西本町)
主 催：広島大学マスターズ　　共 催：広大マスターズ友の会
後 援：東広島市・東広島市教育委員会
(本事業は令和元年度東広島市市民協働のまちづくり活動応援補助金事業経費を一部受けた)

第1部：基調講演 (午後 2 時 10 分～2 時 40 分)
講 師：渡部和彦 (広大名誉教授・広大マスターズ)
要 旨：「国際化する東広島：市・地域活性への期待と課題」：小・中学校教育現場では、外国人児童の急増で日本語、慣習等の指導が大きな課題。児童・生徒同様、保護者も言葉等の壁が大。現場スタッフの努力では限界状態。/留学生・外国人市民と一般市民との交流が重要課題。市、大学、住民自治協などの組織的な対応が望まれる。/東広島には、大都市には無い魅力的場所や「宝」がある。この魅力を体験していただく機会をつくり、「観光大使」として、自国に発信してもらえないか。

第2部：シンポジウム (午後 2 時 50 分～4 時 50 分)
司 会：池田秀雄 (広大名誉教授・広大マスターズ)

「東広島の魅力と市民への期待」では、外国人シンポジスト3名から話題提供があった。
「外国人留学生との交流体験談」では、アパート経営の傍ら、インドネシアからの留学生・家族等を含め、幅広い献身的支援活動について、福村昭士氏から紹介された。 外国人市民、S.テイラン氏 (スリランカ) は、日本企業での仕事と共に、積極的に災害ボランティアとしての活動、自国の料理教室活動等、市民としての体験等が披露された。広大留学生 M・レザ・ルスタム君 (インドネシア) は、イスラムの食・生活習慣の紹介とその理解への提言。市内 (医療センター内) に祈りの場 (3 メートル四方の空間) の希望を提案。広大留学生 V.B.ヴァシレヴァさん (ブルガリア)

は、東広島に住み、「田舎の魅力」に満足できるようになった。しかし、雨天や混雑時の公共交通機関のサービスの向上を訴えた。

市民レベルの国際交流には、市民の献身的努力と共に、行政等「組織的」取り組みの必要性を痛感した。この市民フォーラムを機に、「国際化する東広島」の更なる充実・ 発展のための議論の深まりを期待する。

当日は、高垣高廣市長、越智光夫学長より祝辞をいただいた。一般市民はじめ学校関係者、市役所職員、市議会議員など、約 150 名の参加があった。

末筆ながら、プレスネット社 (2020.2.27 号)、中国新聞社、(株)カモンケーブルTV には、広報面でのご協力をいただいた。心から感謝申し上げます。